

中国語の環

第121号

『中国語の環』編集室編 2022年9月

- 目次 9 巻頭エッセイ ハッシュタグのススメ
10 中国語でどういう? そうなんだよ!
11 例文で説き(=解き)ほぐす中国語文法
Lesson 5 疑問文の「疑問」を解く(第2回)
12 語彙学習の話 基本語彙について
13 紛らわしい文法表現 文末の“了”と“V了”
15 看图学谚语 絵で見ることわざ(11)
17 中国語と文化 禅語由来の中国語
18 中国語の文法は面白い 窓を開けてもらえませんか
19 読者の広場 私の中国語学習法

ひとことエッセイ

前号に「ひどい、はげしい」という意味の“厉害”はかつては“利害”と書いたと記したところ、何人かの方からわたしもそう習ったというお便りをいただきました。いずれも80年代に学ばれた比較的年輩の方のようです。《現代汉语词典》の見出しが“利害”から“厉害”に変わったのが96年の第3版ですから時間的にも一致しています。

呂叔湘先生によると“厉害”を使い始めたのは魯迅だとのことですが、確かに魯迅以前に“厉害”の用例は見当たりません。もっともわたくしの読書範囲など限られていますから、この先例外が見つからないとは断言できませんが…。一方の“利害”は近世の口語による小説などに頻繁に使われています。それが魯迅が使ったというだけで多くの作家が一斉に“厉害”に切り替えるというのはどういうことでしょうか。巴金も老舍も“厉害”を使っています。当の魯迅は初めは“利害”で後に“厉害”に切り替えたようです。まあ“利害”よりも“厉害”、特に繁体字で“厲害”と書いたほうが凄みが感じられますが…。

(上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

ハッシュタグのススメ

氷野 善寛（目白大学）

ウェブを使った中国語学習と言えば、アプリを使った中国語学習を想像してしまいがちですが、少し違った方向からウェブを使った中国語学習方法を紹介します。

タイトルにあるハッシュタグ（以下、タグ）とはTwitterやInstagram、FacebookといったSNS上で使用される「#」がついたキーワードのことです。SNSにタグをつけて投稿することで、特定の話題に関連付けて話題を投稿したり、関連する話題を整理したりすることができます。たとえば中検が実施された日に「#中検」とタグをつけてSNSに投稿すれば、当日実施された中検の感想や中検という共通のテーマに興味がある人の間で話題を共有することができるというわけです。こういったタグはウェブ、とりわけSNS上に流れる膨大な量の投稿から自分が必要な情報や話題を探すために必要な「道しるべ」になるわけです。一昔前なら中国語学習者は自身が所属する学校や勉強会など特定のコミュニティ以外に学習の輪を広げることは容易ではありませんでしたが、今はこのSNSとタグを組み合わせることで学習の輪を容易に広げることができ、SNS上で中国語学習を共通の話題として持つ“同学”や“老师”，さらには“中国朋友”と結び付くことができるというわけです。

それではタグを使った中国語の学習方法をいくつか見てみましょう。試しにTwitterを開いて検索ウィンドウから「#中国語学習」と入力して検索してみましょう。タイムラインには中国語学習の様子が分かる投稿や生の教材など実に様々な種類の投稿が表示されることでしょう。中検の学習に絞るのであれば、中国語検定試験（中検）の公式アカウント（@chuken_3611）をフォローするのもいいでしょう。定期的に、「#中検〇級」というタグと共に出題される過去問やワンポイントアドバイス、「語彙をふやそう」、「絵で見る慣用語」、「文字を正確に」といった140字以内の内容でまとめられた学習コンテンツが投稿されます。この定期的に、限られた文字数という点が語学学習には非常に大事で、学習習慣の形成にもつながります。他にもNHK語学番組で放送された中国語のフレーズを中心に、1時間に1回フレーズが投稿されるゴガクル中国語（@gogakuru_zh）なども日中翻訳の学習に有用です。定期投稿系では中国語に関するクイズも空き時間に学習できるコンテンツとして重宝されます。また学習者自身が学習内容を投稿するために使われているタグもあります。たとえば「#中国語音読」では、中国語を音読している様子が、「#听写」ではディクテーションの成果が、「#中国語一問一答」や「#看图说话」では中国語の作文が投稿され、それに対する“同学”や“中国朋友”のコメントも見ることができます。学習に飽きたら「#中国留学」「#中国旅行」といったタグを覗いてみるのもよいでしょう。

自分にあった中国語学習に関連するタグを探しに行きましょう。

そうなんだよ！

張 勤（中京大学）

相づちの表現として常用される“可不是（可不是吗）”はコミュニケーションの場において情報のやり取りの形に合わせた複雑な意味を持っている。その一つは(1)のように、聞き手からもらった情報に対して、その情報を受け入れ、更にそれが確かだと確認するといったことを同時に示す使い方である。この“可不是”の場合、情報の確認も済んだのに、(2)のように更に“在哪儿？”とは尋ねられない。

(1)A：你看，沙发坏了。（おや、ソファが破れているよ。）

B：可不是，什么时候这儿破了个洞呢。（そうだね/ほんとだあ、いつここに穴ができたんだ？）

(2)A：你看，沙发坏了。（おや、ソファが破れているよ。）

B：×可不是，在哪儿？（そうだね/ほんとだあ、どこ？）

(1)の“可不是”は情報がAからBに伝えられ、Bがそれを受け入れ、確認するものだが、その意味と使い方は日本語の「ほんと（う）だ」に相当する。ところが、(3)

(4)のような場合に使われる“可不是”はまったく異なる。

(3)A：哟，怎么沙发坏了？（あつ、なんでソファが破れたんだ？）

B：可不是，昨天两孩子拿着玩具在上面使劲儿划，到底给捅出个洞来了。（そうなんだよ、昨日、2人の餓鬼がおもちゃで強く引っ掻いてとうとう穴が開いたちゃったんだよ。）

(4)A：你一个人在教室看书啊？（一人で教室で本を読んでいたの？）

B：可不是吗，其他人都去打疫苗了。（そうだったんだよ、他の人はみんなワクチンを打ちに行っちゃった。）

(3)(4)は(1)とは逆で、情報はAからBに伝えられるのではなく、コミュニケーションとしてはAがBに情報確認を求めるという流れである。(3)に則して言えば、まずAがBに対して自分がキャッチした“沙发坏了”の状況についての確認と“怎么～？”の追加情報を求め、そしてAに対してBは“可不是”を使い、Aの状況認識が正しいと肯定しつつ、「実はこういうことなんだ」と状況説明の引き出しを行ったわけである。この場合の“可不是”の意味合いを日本語に訳すると、「そうなんだよ、実はね…」といったところであろう。(3)(4)の“可不是”は状況説明の引き出しともなるため、後続文がないと(5)のように不完全なものになってしまう。

(5)A：你一个人在教室看书啊？（一人で教室で本を読んでいたの？）

B：？可不是。（そうなんだよ。）

日本語では「ね」「よ」の使い分けのように話し手と聞き手のどちらに情報があのかは非常に大事だが、中国語においても“可不是（吗）”に見られるようにコミュニケーションにおける情報の流れが言語表現の意味を左右することは多々ある。

Lesson 5 疑問文の「疑問」を解く(第2回)

古川 裕(大阪大学)

前回のポイントは「疑問」の二文字を解体して、「疑問」イコール「疑い」プラス「問い」と考えることからスタートしました。特に、中国語の疑問文には「疑い」文と「問いかけ」文という2種類の異なる表現があるということを強調しました。簡単に復習すると、まず「問いかけ」とは(1)“他是大学生吗?”のような文で、話し手が考えている“他是大学生”「彼は大学生である」という判断が正しいかどうかを聞き手に問いかけている表現です。文末の語気詞“吗”が最終判断を聞き手に任せたと示すマーカーです。聞き手は話し手から投げかけられたこの「問い」に返答することを求められています。一見すると例文(1)と同じ意味で使えそうな(2)“他是不是大学生?”は、話し手の頭の中で“他是大学生”「彼は大学生である」と“他不是大学生”「彼は大学生ではない」のように、肯定と否定の間で判断が揺れている未確定の状況を伝えています。この「疑い」表現で示されているのは、話し手の側に未確定な状態があるということであって、必ずしも聞き手は必要ではありません。

このように「疑い」文と「問いかけ」文は日本語訳こそ同じになっても、そもそも発想が違う2種類の異なる表現なのです。

今回続いて紹介するのは「疑い」文のバリエーションです。下の例文(2)~(4)はいずれも話し手の中で情報が未確定な「未定」状態にあることを伝える表現です。

(2)他是不是大学生? (3)他是大学生还是中学生? (4)他是什么人?

例文(3)の話し手の頭の中は「彼は大学生である」と「彼は中学生である」という二つの考えで揺れています。例文(4)では「彼が何者であるのか」について、話し手が確定できない未定状態が表されています。

この「疑い」3タイプは、「問いかけ」のマーカー“吗”とは相性が悪くて、一緒に使うことができません。日本語だと「彼は大学生ですか、それとも中学生ですか」や「彼は何者ですか」のように文末に「か」が付きますが、中国語でも“吗”を付けたりしないように注意しましょう。逆に、「疑い」は“呢”とは相性が良くて、「疑い」3タイプすべての文末に付いて話し手の迷う気持ちを表します。下のように左側の“呢”が付く「疑い」文はすべて成立しますが、右側のように“吗”が付くと不成立です。(例文の頭に付いている*はその文が成立しないことを表します。)

(2)他是不是大学生呢? *他是不是大学生吗?

(3)他是大学生还是中学生呢? *他是大学生还是中学生吗?

(4)他是什么人呢? *他是什么人吗?

ちなみに学校文法では(2)は反復疑問文、(3)は選択疑問文、(4)は疑問詞疑問文などと呼ばれますが、これらの文法用語は忘れてしまってかまいません。大事なのは、「呢」と相性がよい3タイプがすべて「疑い」文であることを理解しましょう。

基本語彙について

沈 国威（関西大学）

何事にも基本的な部分があり、それを押さえることにより、全体がうまく制御でき、効率よくことを運ぶことができる。中国語で言えば“綱举目张”である。言語教育、特に外国語教育における基本語彙はこのようなものである。外国語の学習は、基本語彙からスタートし、徐々に深めていき、発展させていくものと言われる。いわゆる“由浅入深”“循序渐进”である。しからば基本語彙はどのような性質を有すべきか。

中国の語文教育のバイブルとも言える《現代汉语》（商務印書館）では、基本語彙の性質として、「穩固性」「能産性」「全国民常用性」という3つの特徴を挙げているが、それぞれ長期間にわたって安定している、さらに新しい語を構成できる、大多数の国民によって常用される、という意味である。だがこの3つの特徴に従えば基本語彙がどれだけあり、どのようなものがあるかを決められるだろうか。外国人学習者用の中国語語彙表は、HSK語彙リストをはじめ数多くある。基本語彙の部分に関して選定基準は理に叶っているだろうか。筆者は、国際中国語教育のための基本語彙の選定には次のような点が重要であろうと考える。(1)日常語彙と学習語彙を区別すべきである。短期間の中国旅行や日常会話が主な目的か、それとも留学を含め中国について深く勉強するためかという学習の目的によって基本となる語彙が異なってくる。(2)現代中国語は、“家=家庭”“学=学习”“小=微小”のように、同じ意味を表すのに1字と2字の同義語がある場合が多い。この1字語と2字語の区別は、日常語彙と学習語彙の特徴とも相関している。基本語彙はこのような「単双相通」の特徴を反映すべきである。形が変わっても1語である意識が大事である。(3)どの言語にも多くの同義語・類義語のグループがある。それぞれのグループに代表格の語が存在している。代表格の語は使用頻度が高く、意味もニュートラルである。その習得により、他の語を解釈したり、言い換えたりすることができるし、独学自習も可能となる。(4)現代中国語には、“飲料、食品、家具、农产品”のような同類のものを表す語がある。殆ど20世紀に入ってから復活した語か新語である。種類を表す語は、抽象的な用法しかないと言われるが、いまは“多吃蔬菜”“喝一点饮料”“买了一件家具”などの表現もできるようになった。その延長線上に接頭辞、接尾辞の増加がある。基本語彙はこの現象を捉えるべきであろう。(5)として、基本語彙はすべての意味分野をカバーするようにしなければならない。ある外国人用の語彙表には「浅薄」「輕視」の意味を表現する語がない。解消すべき状況であろう。

理想的な基本語彙表は、十分な表現性（言いたいことが一応言える）と発展性（さらに上達する）がなければならない。では、どのように選定するか。紙幅が尽きたので、別の機会に譲る。

文末の“了”と“V了”

魯 曉琨（文京学院大学）

前回では、文末におく“了”を「過去のことを表す」「了a」と「事態の変化を表す」「了b」に二分類しました。今回はまず“V了”について考察したうえで、“V了”と“了a”、“V了”と“了b”および動詞述語文における“了a”と“了b”の区別を考えていこうと思います。

“V了”の“V”は動詞のみならず「動＋結果/方向」も含まれています。“V了”の“了”についても定義が多くありますが、ここでは、日本語を母国語とする学習者のことを考慮して、“了a”との区別を考え、“V了”の“了”は「Vの実現を表す」という定義を採用します。

(1)他昨天买了一台电脑。

（彼は昨日パソコンを一台買いました。）

(2)我在上海看到了很多新鲜事。

（私は上海で珍しいことを多く見かけました。）

“V了”の“了”は(1)では“买”という動作の実現を、(2)では“看到”という「動作＋結果」の実現を表します。

すでに実現したことはやはり過去のことである場合がほとんどであり、(1)(2)のように日本語の過去形に訳されます。過去といっても、(1)(2)の目的語に“一台”“很多”という数量限定語がついているため、文末“了a”を用いることができず、(1)′(2)′は成立しません。

(1)′*他昨天买一台电脑了。

(2)′*我在上海看到很多新鲜事了。

ただし「V了(O), V(O)」という構文では“V了”の“了”は未来実現も表します。比べてみましょう。

(3)明天下了课，我去打工。

（明日授業が終わったあと、わたしはアルバイトに行きます。）

(4)昨天下了课，我去打工了。

（昨日授業が終わったあと、わたしはアルバイトに行きました。）

例(3)は文全体が未来のことを示しているので、“下了课”は動作の未来実現を表します。一方、(4)は文全体が過去のことを示しているので、“下了课”は動作の過去実現を表します。(4)(3)における過去と未来の違いは文末“了a”の有無によって区別されています。この違いにより文末“了a”が「過去のことを表す」という意味も再確認できました。

ここまで“V了”と“了a”の区別に触れましたが、下記の構文に現れるのは“V了”と“了b”です。

- (5) a 我吃了两个面包。 (私はパンを二つ食べた。)
 b 我吃两个面包了。 (私はもうパンを二つ食べた。)
 c 我吃了两个面包了。 (私はもうパンを二つ食べた。)
 (6) a 我学了两年汉语。 (私は中国語を2年間勉強した。)
 b 我学两年汉语了。 (私は中国語を勉強して2年となりました。)
 c 我学了两年汉语了。 (私は中国語を勉強して2年となりました。)

例(6) a では“学”という動作は話す時間の前にすでに実現済みで、過去の時間を加えて“上大学时我学了两年汉语”も成立します。一方、(6) b では“学”という動作は話す時間まで継続していて、学習した時間はゼロから2年間になったとの変化を言っていて、“上大学时我学两年汉语了”は成立しません。(6) c は(6) a と(6) b という二重の意味を表しますが、(6) b に偏っています。例(5)も同様に解釈できます。

以上の分析により、「目的語に数量限定語を伴う構文」と「動詞に数量補語を伴う構文」では、文末の“了”は「事態の変化を表す」「了b」であることが判明します。つまりこの場合では“了b”はゼロから完成量までの数量変化を表します。ちなみに、“了b”を用いるとき、動作は話す時間まで継続しているが、その後、継続してもしなくてもかまいません。例えば、

- (7) 我吃（了）两个面包了，不再吃了。
 (わたしはもうパンを二つ食べたから、これ以上食べません。)
 (8) 我吃（了）两个面包了，再吃一个。
 (わたしはもうパンを二つ食べたが、もう一つ食べます。)

なお、(5)(6)では“吃”も“学”も持続性がある動作ですが、持続性がない動作にも適用できます。例えば、

- (9) 我来日本三十年了。(わたしは日本に来てから30年たちました。)

例(9)では“了b”は日本に来てからの時間はゼロから30年になったという数量変化を表しています。

動詞述語文においては、もう一つ文末に“了b”しか来ないケースがあります。つまり、動詞に可能補語を伴う場合です。例えば、

- (10) 老师说的汉语我听得懂了。
 (先生の話す中国語は聞いて分かるようになりました。)
 (11) 年龄大了，干不了重活了。
 (年を取ったので、重労働ができなくなりました。)

最後に注意すべきことですが、動作動詞述語文において“了a”と“了b”の判断は文脈による場合もあります。例えば、

- (12) 病人吃饭了。
 (a 病人は食事しました。 b 病人は食事するようになりました。)

例(12)では、文末の“了”は普通“了a”と理解しますが、もし、病人は食事しなかった状態からする状態に変わったという文脈であれば、“了b”とも理解できます。

絵で見ることわざ(11)

絵 張 恢

文 『中国語の環』編集室



塞翁失馬，焉知非福

sài wēng shī mǎ, yān zhī fēi fú

人間万事塞翁（さいおう）が馬；人生における吉凶・禍福の転変は予測しがたいということのたとえ。『淮南子・人間訓』に見える故事から。



三十六計，走为上策

sānshíliù jì, zǒu wéi shàngcè

三十六策，走（に）ぐるを上策と為す；数多くある策のうち，逃げるべき時には逃げるのが最上の策である。三十六計逃げるに如かず。逃げるが勝ち。



山中无老虎，猴子称大王

shānzhōng wú lǎohǔ, hóuzi chēng dàwáng

虎がいない山の中で猿が大威張りしている；強い者や優れた者のいない所で弱い者やつまらない者が威張っていることのたとえ。鳥なき里のこうもり。



三个臭皮匠，赛过诸葛亮

sān ge chòu píjiàng, sàiguò Zhūgě Liàng

特別に頭のよい人でなくても三人が協力すれば，諸葛孔明にも勝るよい知恵が出るものだ；三人寄れば文殊（もんじゅ）の知恵。



杀鸡焉用牛刀

shā jī yān yòng niúdao

鶏を割くに焉（いづく）んぞ牛刀を用いん；ちょっとしたことを処理するのに大人物や大がかりな手段を用いる必要はないということのたとえ。



上有天堂，下有苏杭

shàng yǒu tiāntáng, xià yǒu Sū-Háng

天には極楽浄土があり，地には蘇州・杭州がある。物産が豊かで景勝に恵まれた蘇州と杭州が地上の楽園であることをいう。



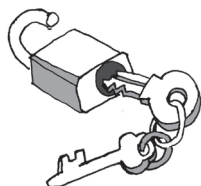
射人先射马，擒贼先擒王

shè rén xiān shè mǎ, qín zéi xiān qín wáng
人を射んとせば先ず馬を射よ、賊を擒（とら）えんとせば先ず王を擒えよ；目的を達成するには、まず相手が頼みとするところから攻めるのがよい。



身教重于言教

shēnjiào zhòngyú yánjiào
口で言うより身をもって手本を示すほうがよい。率先垂範。“言教不如身教”（実践は訓戒にまさる）とも。



什么钥匙开什么锁

shénme yàoshi kāi shénme suǒ
一つの鍵は一つの錠しか開けられない；それぞれの問題や人に対してそれぞれの対処の仕方が必要である。“一把钥匙开一把锁”とも。



十个指头不一般齐

shí ge zhītou bù yībān qí
十本の指にも長い短いがある；人の能力や性質にはそれぞれ違いがある。同じ兄弟でもいろいろある。十人十色。“十个指头有长短”とも。



十年河东，十年河西

shí nián hé dōng, shí nián hé xī
（河の流れが変わりやすく）十年前は河の東にあった場所が、十年後には河の西になってしまう；世情人心の変わりやすくあてにならないことのたとえ。



瘦死的骆驼比马大

shòusǐ de luòtuó bǐ mǎ dà
痩せて死んだらくだでも馬よりは大きい；本当に優れたものはたとえ価値が下がっても、なおほかのものよりも値打を保つ。腐っても鯛（たい）。

禅語由来の中国語

加藤 徹（明治大学）

昔の日本人が書いた文章を読むと、唐突に中国語と出くわすことが、けっこう多い。

例えば、泉鏡花の幻想小説『高野聖』（1900年）には、

「頓馬で間の抜けたといふのは那（あ）のことかい」

「あれ、貴僧（あなた）、那樣（そんな）行儀の可（い）いことをして」

「那麼（あんな）のぢやと噂さが高かつた」

「甚麼（どんな）履歴のある沼でも、此位な蛭はあらうとは思はれぬ」

「恁（かう）やつて居りまして恁麼（こんな）でございますよ」

夏目漱石の小説『草枕』（1906年）にも、

「ただ這裏（しゃり）の福音を述べて、縁ある衆生を麾くのみである」

河上肇の評論『貧乏物語』（1916年）は、

「欧州の天地、即今戦報のもたらず以外、別に這箇（しゃこ）の大戦争あるを看過されずんば」

「戦時におけるドイツ這個（しゃこ）の経営について大いに学ぶべし」

「水一滴もむだにしてはならぬという這般（しゃはん）の消息になると」

「しかるに『茫々たる宇宙人無数なれども、那個（なこ）の男児がこれ丈夫』で」

「今日の経済組織の欠陥の那邊（なへん）にあるかはよくわかる」

現代中国語の簡体字に直すと、那樣は“那样”，那麼は“那么”，甚麼は“什么”，這裏は“这里”，這箇・這個は“这个”，這般は“这般”，那個は“哪个”，那邊は“哪边”である。

“恁”や“恁么”は古い時代の白話で、現代中国語では使わない。

日本では鎌倉時代、僧侶の栄西（1141年-1215年）や道元（1200年-1253年）らが南宋から禅宗を導入した。日本の禅僧や、在家の参禅者のあいだでは、『碧巖録』（1125年成立）をはじめとする中国禅僧の数々の語録が、教科書として読まれた。語録なので、いわゆる漢文（文言）ではなく白話である。禅は、日本の茶の湯（茶道）とも結び付いた。茶室の掛け軸に書いてある禅語には、「放下著」「喫茶去」「驀直去」「也太奇」「大死底人」「那箇是知音」「似這般清寥寥白的的」など唐・宋時代の白話も多い。

1975年から1982年にかけて日本のテレビで放送された子ども向けのアニメ『一休さん』は、中国や東南アジアでも放送され、人気を博した。一休は日本人だが、室町時代の禅寺が舞台なので、セリフの中でよく「そもさん（作麼生／怎麼生／什麼生）」「せっぱ（説破）」という中国伝来の禅問答の決まり文句が出てきた。中国語風の禅語が普通の日本人の教養だったのは、昭和の末までであった。

窓を開けてもらえませんか

王 志英（沖縄大学）

電車の中で、窓を開けるのを隣の方に手伝ってほしい時、

(1)麻烦你帮我开开窗户。

という言い方をするのが一般的である。しかし、自分が手伝ってあげる立場なら、

(2)a 我来帮你开窗户。

b *我来帮你开开窗户。

aのほうが自然である。

中国語の動詞の重ね型は動作・行為が行われている時間量、動作の回数が「不定量」であることを表し、前の動詞の数量補語として使われている。

(3)*他看了看一本书。

動詞の重ね型は「不定量」を表しているため、(3)のように目的語に更に「定量」な表現“一本书”をつけるると意味的に矛盾することになる。

動詞の重ね型は、動作の始発局面を持っているが、終了局面ははっきりしない。始発と終了の間の動作の量は不定であるため、「部分完了」という特徴を持つことになる。「部分完了」とは、動作が部分的に行われ、行われている量は不定で、ある段階（終局点）までは終了するが、目標点（goal）まで達したかどうかは、関与しないということである。

(4)a 电视我修了修，修好了。

b 电视我修了修，没修好。

aは目標点まで達していた。bは目標点まで達していないが、“修”という動作が「部分完了」で、ある段階まで終了したということは確かである。

動詞の重ね型が表している量は、文脈に左右される。文脈と修飾語によって、動作の量が多かったり、少なかったりすることが可能である。

(5)你好好看看你的作业，哪儿写错了？

(5)は修飾語“好好”があるから、「見る」時間が長くなる可能性がある。(1)は相手をお願いしているので、「他者に対する負担を最小限にせよ」(Leech1983: 訳書190ページ)という気配りの原則から、動作・行為を行う最大の選択権（動作・行為をどこまで進行するか）を相手に渡すことになり、動作量が少なく感じ、丁寧な依頼になる。

同様に「他者に対する利益を最大限にせよ」という（Leech1983: 訳書190ページ）原則に従えば、(2)のaは相手に利益を提供することは、目標点まで責任を持って行為を実行することを意味する。しかし、(2)のbは重ね型が「部分完了」であるため、目標点までの実行をはっきり表していないので、相手に最大の利益を提供しないことになり、丁寧さの原則に違反することになる。

私の中国語学習法

中検万年3級受験生 伊奈輝三

私は84歳で今はいわゆる悠々自適の生活ですが、中国語の学習は毎日欠かしたことはありません。私が何のために中国語の勉強を始めたかをお話しておきましょう。

私の家の近くに中部国際空港があり、私はそこで案内ボランティアをしています。10年くらい前から中国人旅行者が増えて中国の方を案内する機会も多くなりました。彼らが話す中国語はほとんど聞き取れませんが、少しでも話が通じれば彼らも喜んでくれますし私も嬉しいです。中国語で案内できるようになるのが夢です。

さて、私の中国語学習法はNHKラジオの「まいにち中国語」を毎朝聞き、たまには「ステップアップ中国語」や中国語ニュースも聞きます。NHKの「テレビで中国語」も録画して復習のつもりで見えています。また、月2回の中国人教師の個人レッスンを受けていて先生が用意してくださる教材で勉強していますが、その予習復習と宿題にかなり時間を使います。

2019年11月第99回から中検3級を毎回受験し、今までの成績は6勝2敗です。レッスンの倪丹老師が「伊奈さんは3級の合格証を何枚集めるつもりなの？次は2級に挑戦したら！」と言っていますが、2級のリスニングの長文は私には“太难了！”です。

これからも3級の受験を続けることになりそうですが、それでもこの受験は私の中国語学習には重要な意味があります。学習を続けていく中で自分に対して時には何かのプレッシャーが必要なのです。年3回の中検の受験はその役割をしてくれています。受験という機会を今まで学習したことを総復習する機会に活用しているわけです。

実力はなかなか進歩しませんが、後戻りしないように学習しています。中国人の言う“活到老，学到老”です。

不怕慢，就怕站。
一起努力学习吧！



CHU犬

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、試験に関することなど、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、中国語関連書籍を進呈します。